

馬出門櫓形の復元整備を終えて

諏 訪 間 順

平成 21 年 3 月 29 日、馬出門の開門式が行われた。開門後は、桜の季節と重なり連日多くの市民や観光客が馬出門を訪れた。馬出門の完成により、本来の登城口から入城することができるようになり、人の流れに変化が見られるようになったことは大変喜ばしい。

馬出門の整備は、平成15・16年度に櫓形石垣の根石(基礎石)や門の礎石の発掘調査の成果と絵図などの資料の検討を行い、整備計画が立案された。そして、平成17・18年度は石垣復元工事を、平成19・20年度は馬出門櫓形の門と土塀の復元工事を実施した。

馬出門櫓形の整備では、赤い欄干が風情のある「隅櫓橋」と樹齢 80 年を超える松などの樹木を撤去しなければならないという大きな課題があった。「隅櫓橋」は昭和 3 年の設置以来、市民に親しまれていた橋で、「隅櫓橋」撤去は、市民による撤去反対の署名活動などに発展し、樹木の伐採は市民から反対の意見が寄せられた。このため広報誌や記者発表による説明を行うとともに、反対運動の関係者や地元自治会や商店街などに対し、理解を求めるために説明を繰り返した。そして、最終的には一定の理解を得て、橋の撤去や樹木の伐採を行い、整備を進めることになったが、こうした市民の理解を得ることは、とても困難な手続きであった。

現在は、馬出門に続き、馬屋曲輪の修景整備を進めており、櫓台石垣の発掘と復元整備を行っている。馬屋曲輪の整備は平成 22 年度末までには終了する予定である。

馬出門の整備により城としての歴史的景観が整備されてくると、天守閣をはじめとする建造物の眺望をさえぎる樹木を整理すべきとの意見

が寄せられるようになり、現在は、史跡としての適正な植栽管理計画の策定も進めている。今後は植栽管理計画に基づき、歴史的景観の確保や、石垣などの遺構の保全のために、適正な樹木管理が行われることになるであろう。こうした作業は、史跡整備と緑地保全の両面を市民との調整をはかりながら合意の上で進めていかなければならない難しい課題であるが、史跡小田原城跡を歴史的遺産として次代に引き継ぐためには着実に進めていく必要がある。

こうした近世城郭としての史跡整備と同時に、八幡山・総構などの中世小田原城の整備も本格的に開始された。マンション建設の反対運動に端を発した八幡山古郭東曲輪の史跡指定とその後の整備事業は、平成 19 年度から着手し、本年度末には完了する。今後は、中世の小田原城の空堀や土塁などの総構の巡る、散策ルートなどを整備していく予定である。史跡小田原城跡の本格的な史跡整備を着手して四半世紀が経過したが、ようやく史跡らしい歴史的景観が整いつつある。

この機会に会員諸氏も小田原城の散策に出かけていただきたいものである。



2009 年度総会を開催

さる5月9日(土)、2009年度の総会を神奈川県埋蔵文化財センターにて開催しました。ここに総会の内容を報告します。

会則に則り、岡本孝之会長を議長に選出した後、以下の議事が総会に諮られました。

- 議事1 2008年度事業報告
- 議事2 2008年度収支決算報告
- 議事3 会計監査報告
- 議事4 2009年度事業計画案
- 議事5 2009年度収支予算案
- 議事6 役員の改選について

議事1 2008年度事業報告

(総務) 2008年度総会を、2008年5月10日に、神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。参加者は80名。総会後に考古トピックスとして「近代都市の考古学」と「乗越遺跡の発掘調査の概要」を講演。年度中は役員会及び幹事会を開催。

(会誌)『考古論叢神奈河』第17集を2009年3月31日に発行。3本の論文を所収。

(連絡誌)『考古かながわ』第40号(10月)、第41号(2月)を刊行。

(考古学講座) 2009年3月8日、横浜市歴史博物館にて「貝塚とは何か 縄文から近代まで―神奈川の貝塚にみる貝塚観の変遷―」と題して開催。参加者は134名。

(発表会) 第32回神奈川県遺跡調査・研究発表会を2008年10月25日に横浜市歴史博物館にて開催。参加者は160名。

発表は、午前中に小特集「近代遺跡にみる神奈川の夜明け」と題して、横浜市山下居留地遺跡、神奈川台場、藤沢市東海道藤沢宿の3本の調査報告が行われました。

午後からは、縄文時代から中世までの6本の調査報告が行われました。また、会場である横浜市歴史博物館の特別展「縄文文化円熟」の見学を行いました。

(遺跡見学会) 2009年1月25日に、平塚市の真田・北金目遺跡群・塚越古墳と周辺集落の見学を開催。参加者は40名。

(ホームページの運営) 2007年度に開設したホームページ「神奈川県考古学会 考古かながわ」の管理・運営を行いました。また、メーリングリストの運営も併せて行いました。

(20周年記念事業積立) 20周年記念事業のために150,000円の積立を行いました。積立総額は、2006年度から2008年度分を合わせて1,050,000円となっています。

議事2 2008年度収支決算報告

2008年度の収支決算が報告されました。

議事3 会計監査報告

2008年度の収支決算について、2009年4月23日に会計監査を実施。金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていると監事より会計監査報告が行われ、議事2の収支決算報告とともに拍手をもって承認されました。

議事4 2009年度事業計画案

(総務) 総会は2009年5月9日、神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。総会後に、かながわ考古トピックスを開催。役員会・幹事会はかながわ労働プラザにて5月20日に第1回役員会を開催し、以降2ヶ月に1回程度の間隔で年6回程の開催を予定。

(会誌)「考古論叢神奈河」第18集を2010年3月に刊行予定。

(連絡誌)「考古かながわ」第42号、第43号を発行予定。

(考古学講座) 2010年1～3月頃に開催予定。

(発表会) 第33回神奈川県遺跡調査・研究発表会を2009年秋頃開催予定。

(遺跡見学会) 県内発掘調査現場及び考古資料展示施設などにおいて実施予定。

(ホームページ) 継続的に運営。

(20周年記念事業積立) 2010年度に迎える20周年の記念事業に向けて150,000円の積立。なお、20周年記念事業の内容については、今年度にアンケートなどで会員の意見を募り、具体的に検討を行います。

2008年度 収支決算報告

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
会費	1,221,000	1,062,000	▲ 159,000	旧年度会費 3,000 × 82 名 = 246,000 本年度会費 3,000 × 254 名 = 762,000 次年度会費 3,000 × 18 名 = 54,000
機関誌等売り上げ	600,000	604,740	4,740	発表会要旨 138,740 考古論叢 196,140 講座要旨 269,860
雑収入	5,000	80	▲ 4,920	送料/預金利子/他 80
繰越金	1,306,069	1,306,069	0	
合計	3,132,069	2,972,889	▲ 159,180	

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
事務局費	170,000	128,279	▲ 41,721	連絡費 68,118 会場借上費 22,420 事務費 11,761 行事開催費 500 会費振込手数料 25,480
会誌費	1,190,000	841,731	▲ 348,269	連絡費 815 事務費 1,656 印刷費 839,260 ※論叢 16 号及び論叢 17 号の 2 冊の印刷費 謝礼 0
連絡誌費	200,000	172,452	▲ 27,548	連絡費 7,190 事務費 17,640 印刷費 147,622
発表会費	460,000	297,996	▲ 162,004	連絡費 13,615 事務費 1,056 行事開催費 41,825 印刷費 241,500 謝礼 0
講座費	430,000	395,121	▲ 34,879	連絡費 6,565 事務費 6,974 行事開催費 58,632 印刷費 292,950 謝礼 30,000
見学会費	95,000	21,000	▲ 74,000	連絡費 21,000 事務費 0 行事開催費 0 謝礼 0
ホームページ運営費	60,000	35,280	▲ 24,720	連絡費 630 H P 使用料 34,650 ※サーバー年間 (2008.4~2009.3) 使用料金 0
記念事業積立金	150,000	150,000	0	
予備費	377,069	0	▲ 377,069	
合計	3,132,069	2,041,859	▲ 1,090,210	

※ 収入 (¥2,972,889) - 支出 (¥2,041,859) = 次年度繰越金 ¥931,030

※ 現在、記念事業積立金として郵便局定額預金に 1,050,000 円が有ります。

内訳 2006 年度 750,000 円、2007 年度 150,000 円、2008 年度 150,000 円

議事5 2009 年度収支予算案

上記の事業計画案とともに 2009 年度の収支予算案が審議され、拍手により承認されました。

議事6 役員の改選について

2008 年度をもって 8 名の役員の任期が満了となり、2009・2010 年度の会務を担当する役員

2009年度 収支予算（案）

（収入の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説 明
会 費	1,146,000	1,221,000	▲75,000	会費 3,000 円× 382 名= 1,146,000 円
機関誌等 売り上げ	600,000	600,000	0	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売り上げ
雑 収 入	5,000	5,000	0	預金利子・雑収入等
繰 越 金	931,030	1,306,069	▲375,039	前年度繰越金（2008 年度）
合 計	2,682,030	3,132,069	▲450,039	

（支出の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説 明
事務局費	170,000	170,000	0	連絡費 80,000 会場借上費 30,000 事務費 20,000 行事開催費 10,000 会費振込手数料 30,000
会 誌 費	500,000	1,190,000	▲690,000	連絡費 10,000 事務費 10,000 印刷費 470,000 謝礼 10,000
連絡誌費	200,000	200,000	0	連絡費 20,000 事務費 30,000 印刷費 150,000 ※年 2 回発刊予定
発表会費	460,000	460,000	0	連絡費 25,000 事務費 5,000 行事開催費 60,000 印刷費 350,000 謝礼 20,000
講 座 費	430,000	430,000	0	連絡費 10,000 事務費 10,000 行事開催費 100,000 印刷費 290,000 謝礼 20,000
見学会費	95,000	95,000	0	連絡費 70,000 ※連絡ハガキ代等 事務費 10,000 行事開催費 5,000 謝礼 10,000
ホーム ページ 運 営 費	60,000	60,000	0	事務費 10,000 サーバー使用料 40,000 謝礼 10,000
記念事業 積 立 金	210,000	150,000	60,000	積立金 150,000 ※20 周年記念事業積立金 連絡費 40,000 会場借上費 10,000 事務費 10,000
予 備 費	557,030	377,069	179,961	
合 計	2,682,030	3,132,069	▲450,039	

（記念事業積立金）

2009 年度積立金総額	1,200,000 円
--------------	-------------

の改選を行いました。任期満了に伴う新たな役員として 8 名が選出されました。2009・2010 年度の新役員体制は巻末に記してありますので参照ください。

「北金目塚越遺跡見学会」に参加して

毛利 加代子

2009年1月25日、神奈川県考古学会開催の「平塚市 北金目塚越遺跡 見学会」に出かけました。

雲一つない青空のもと、西に純白の富士山、北には丹沢の山々を一望し、標高37m程の北金目台地からの眺めは、とても素晴らしいものでした。

この北金目台地は、平塚市の“埋蔵文化財の宝庫”とされています。それぞれの谷には各時代の水場遺構が埋もれ、台地上には弥生時代の集落や方形周溝墓群、古墳前期の方墳や塚越古墳などが築かれてきました。さらには古代のムラや中世の真田城に至るまで、貴重な遺跡群で限なく覆われた地域です。

この“平塚遺産”とも言うべき北金目台地ですが、近年の開発によって、私が数年前に眼にした景観とは大きく様変わりしました。

今回の見学会の概容については、web版『考古かながわ』で報告されていますので、ここでは私の塚越古墳への個人的な思いを書くことにしました。

左の写真は2002年6月の塚越古墳です。この頃、すでに古墳周辺は断崖のように切り通されていました。ギリギリ一杯に剥き出されて取り残されたような塚越古墳の姿に、開発の破壊力を実感しましたが、まだ「塚越公園」を造る計画は知りませんでした。

その後、公園建設計画があること、東側の道



路との高低差が大きく、塚越古墳が壊されるかもしれないことを知り、心底驚愕しました。もしそんな事態になったら古墳の前に座り込みしてでも阻止しなくては…などと深刻な気持ちになりました。その後、結局“決死行動”を取ることも無く、塚越古墳は現況保存されることになりました。

右の写真は昨冬(2008年11月)の写真です。この時には、首長墓らしい風格を残す静かな佇まいの塚越古墳と、すぐ傍の上粕屋・南金目線を走り抜ける車との異様な近さに、再び愕然としました。でも、とにかく真っ平にされないで残ったのだから…と無力な思いを感じました。

そして、今年早々に再び訪れた塚越遺跡。渡された資料から、塚越古墳の周溝を切る形で道路が走る様子がわかりました。

今は枯れ果てたように見える古墳上の桜の樹は、再び美しい花を咲かせてくれるかもしれないけれど、北金目台地の景観と一体の関係にある塚越古墳のあるべき姿は、21世紀の今、確実に失われたように感じられました。

現場で解説をしてくださった平塚市教育委員会の方が「この機会にぜひ塚越古墳に登るなり頬ずりするなりして…」と言われた時、思わず笑ってしまったけれど、今思えば、塚越古墳がこうした形で残ったことへの様々な思いを込めた言葉だったのかもしれない。

ご寄稿どうもありがとうございました。

(連絡誌担当)



旧石器ハテナ館見学会に参加して

園部 理恵

6月7日(日)に、4月に新しくオープンしたばかりの史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館「旧石器ハテナ館」の見学会が行われました。私は、昨年度、神奈川県考古学会に入会したばかりで、初めての見学会参加だったのですが、展示解説だけでなく相模川の石を使った石器作りの体験もできるとのことで、子供と一緒に楽しめるのではないかと思います、親子で参加させていただきました。

学習館は、田名向原遺跡から検出された「住居状遺構」と出土した石器の展示が主で、今から2万年前の後期旧石器時代に、柱を立て炉をもった大型住居が存在していたことに驚きました。また、住居の復元模型や遺跡周辺の立体地形模型、発掘されたときの現場の状況など、ビジュアルに分かりやすく解説されていたのも印象的でした。子供のほうは、歴史を迷路とクイズで学べる「時の迷路」という本を学習コーナーで見つけ、すっかり夢中になって読んだり、土器のパズルで遊んだり、飽きずに歴史に親しむことができました。

学習館と県道を挟んだところには遺跡公園があり、周辺で発掘された「谷原12号墳」や縄文中期の竪穴住居、そして旧石器時代の住居状遺構の復元を野外展示していました。古墳の横穴石室と竪穴住居内は、見学者が自由に入ることができ、石積みの様子や当時の生活を体感することができました。

そしていよいよ、石器作りの体験です。学習館の方の先導で、すぐ近くを流れる相模川の河原に下り、まず石器作りに適した石を探すことから始まりました。「ホルンフェルス」という石は、学習館の方いわく「ミルフィーユ」のような層状の石で、石器の加工に適しているとのこと。10分も歩き回れば、2つ3つ手ごろなサイズを手に入れることができました。その「ミルフィーユ」の塊は、大きめの石に肩の高さから落とすだけで縦方向に剥

離し、あとは手に入る大きさの石で叩いて加工し、あらかじめ石を挟めるように削り抜かれた木に差し込み、紐で固定して出来上がります。とここまで、簡単に書きましたが、この石は加工しやすい分、力を入れるとどんどん割れて小さな破片になってしまい、なかなか理想の形に仕上げるのは難しく、旧石器時代人は、いろいろな経験をして使い勝手の良い石器を作り上げたのだらうと実感しました。

さて、一緒に石器作りを体験した小学5年生の子供に感想を聞きましたので、そのまま掲載いたします。～石を割るのが楽しかった。最初、うまくできないかな?と思ったけど、だんだんできてきて、うれしかった。石に層ができているものを見つけるのは、大変だったけど、きれいな層の石を見つけたときは、これはきれいになるな、と思った。その石を割るときは、きれいに割れたけど、加工するときに割れちゃって、結局きれいな形にはならなかった。木にはめたら、きれいな「やり」のようなものになって、うれしかった。

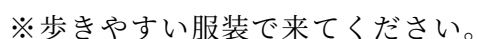
今日の見学会は、目で見えて解説を聞いて理解するだけでなく、実際に石器作りを体験することで、数万年も前の人々の暮らしを体感することができ、より考古学を身近に感じることができました。また、親子で楽しみながら参加することができ、良い思い出にもなりました。今後も、このような企画がありましたら、是非参加させていただきたいと思います。



見学会（探訪会）のお知らせ

武蔵国分寺跡は、大正 11 年に国の史跡に指定されました。そして昭和 41 年に国分寺市は、博物館を併設した歴史学習の場としての歴史公園化構想を発表し、僧寺跡中心部の史跡公園整備に着手しました。その後、時代の流れの変化はありますが、現在も新たな構想で歴史公園としての整備事業が計画的に行われています。本年 10 月 18 日には新しく「武蔵国分寺跡資料館」がオープンし、開館記念特別展示「住田古瓦コレクション～瓦に魅せられて～」が開催されています。

開催日時	2009 年 11 月 21 日（土）午後 1 時～ 3 時 30 分 雨天決行
集合場所	JR 中央線西国分寺駅 南口改札口
入 園 料	一般 100 円（武蔵国分寺跡資料館の入館には、お鷹の道湧水園の入園券が必要です。中学生以下無料。）



- ① 東山道武蔵道（都史跡）

都と地方を結ぶ古代幹線道路

- ② 真姿の池湧水群（都名勝）
・お鷹の道湧水

全国名水百選」に認定

- ③ 武蔵国分寺跡資料館

「見る」・「学ぶ」・「訪ねる」
がコンセプトの資料館

- #### ④ 史跡の駅

愛称“おたカフェ”として新たにオープンしたトイレのある無料休息所

- ⑤ 武蔵国分寺跡 (国史跡)

全国の中でも規模が相当に大
きいとされる古代寺院跡

- ⑥ 文化財資料展示室

国分寺市内の旧石器・縄文時代の遺物も展示

- ⑦ 武蔵国分尼寺跡 (国史跡)

【2009 年度考古学講座のご案内】

「かながわの旧石器時代の ムラと住まいを探る」

開催日 2010 年 3 月 7 日（日）
会 場 横浜市歴史博物館 講堂
時 間 9 時 35 分～16 時 45 分

県内では相次ぐ発掘調査で、旧石器時代の遺跡も数を増してきました。今回の講座では、いまだ具体的な内容が明らかになっていない集落および住居関係について、最新の調査の事例発表を交えながら、遺物分布などをおして追及します。

【内 容】（予定）

- 1 ナイフ形石器文化期のムラ①
ー環状ブロック群と石斧の生産ー
- 2 ナイフ形石器文化期のムラ②
ー最寒冷期における活発な礫群活動ー
- 3 ナイフ形石器文化期のムラ③
ー遺跡間石器接合と遊動生活ー
- 4 槍先形尖頭器文化期のムラ
ー石囲い炉をもつブロックと
槍先形尖頭器の生産ー
- 5 細石刃文化期のムラ
ー細石刃生産ブロックと
その他の活動ブロックー
- 6 相模原市田名向原遺跡の
住居状遺構とその性格
- 7 相模原市城山町小保戸遺跡の
環状分布を呈する礫群（速報）

*内容は変更になることがあります。



田名向原遺跡風景画（相模原市教育委員会提供）

「考古かながわ」原稿大募集！

年に 2 回発行される、この小冊子「考古かながわ」に、原稿をお寄せください。遺跡について、遺物について、昨今の神奈川の考古事情で思うことなど、なんでも構いません。お待ちしております！

メーリングリストに登録しませんか？

当会では会員間の情報交換とコミュニケーションの場として、会員限定でメーリングリストを設置しています。登録すれば県内の発掘調査見学会やその他行事情報を E メールで受け取ることができます。登録は当会ホームページから簡単にできます。

2009 年度～2010 年度 役員

顧問 小出義治 伊東秀吉 寺田兼方
会長 岡本孝之
副会長 中村若枝
監事 松尾宣方 曾根博明
総務 押木弘己 天野賢一 宮坂淳一（会計）
会誌 川嶋美佳子 霜出俊浩 永田史子 阿曾正彦
連絡誌 野口浩史 中川真人 若林勝司
講座 明石 新 小山裕之 鈴木次郎 井出智之
見学会 白勢順子 渡辺直哉 中三川昇 押方みはる
発表会 栗田一生 山田光洋 鯉淵義紀 橋口 豊
(※下線役員は新役員)

考古かながわ 第 42 号

発行 神奈川県考古学会
発行日 2009 年 10 月 10 日
編集 中川真人・野口浩史・若林勝司（連絡誌担当）
印刷 (有)湘南グッド
発行者 神奈川県考古学会 会長 岡本孝之
〒252-8520 藤沢市遠藤 5322
慶應大学 岡本孝之研究室 気付
郵便振替 00240-9-71208
e-mail soumu@koukokanagawa.net
U R L <http://www.koukokanagawa.net>